



# 静岡県では・・・

(新聞記事等より抜粋)

2018年10月:JR東海『トンネル湧水の全量は大井川に戻す』

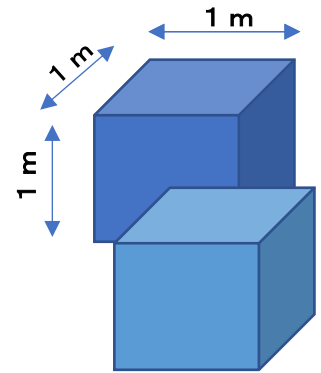
2019年8月:JR東海『全量回復は約束できない』

ユネスコエコパークに登録された**南アルプスが砂漠化する?**

静岡県知事の着工反対の根拠は? 河川法か? 静岡空港駅設置か?

## 2トンの水ってどのくらい?

大井川源流部の減水  
毎秒2トン!



毎秒2トン 毎分120トン  
毎時7200トン

リニア中央新幹線トンネル工事により、県内下流域住民約62万人の生活用水や12,000畝の農地を灌漑する農業用水であり、工業用水や発電用水として多岐にわたり利用されている大井川の水が減水することになる。

減水対策として工事期間中はトンネル内に湧出した地下水をポンプで汲み上げて非常口から大井川に戻す計画であるとし、トンネル完成後の恒久対策はポンプアップして戻すこともひとつの選択肢とするという。

静岡県の広域水道企業団の試算では、毎秒0.7トンの水を130<sup>リットル</sup>汲み上げる電気代だけで年間1兆7520億円かかるとすると、**毎秒2トンの湧水を汲み上げる電機代は年間約5兆円という巨額になる**

電気代の他にJR東海の説明では、毎時60トンを処理する設備だけでも180基必要となる。

確実に処理できる設備の規模配置を再検討すべきと静岡県から指摘されている。

**静岡県知事のリニア県内工事着工への強い反発には法的根拠がある。**

河川法 第1条 災害防止: 流水の正常な機能の維持: 『第9条2項 管理者(知事)』

知事の河川管理者としての責任と許可権限において、許可することは難しい。

**たとえ全量の水を大井川に戻しても、南アルプスは砂漠化する**

リニアトンネルは大きな山に針一本を通すようなもの。トンネルを掘ったから南アルプスが壊れるわけではない。しかし、トンネルが断面の破砕帯に穴を開け、水が一気に抜けてしまえば南アルプスは砂漠化する。



「川勝知事の本音は、閑古鳥が鳴く富士山静岡空港に東海道新幹線の新駅を作って欲しいということ。空港の真下を新幹線が通っている。駅が出来れば利便性が上がる。しかし、静岡駅と掛川駅の間にあるため、列車の減速は避けられず全体の運行本数にも影響が出る。JR東海には、とても飲めない話」(県関係者談)